

ひかりがあるところにはジユウリ  
ヨクがある。

エイゾウ



はじめに

はじめは、ニチジヨウテキなことをかいていたが、いまや、エルガク（ブツリガクっぽい）のはなしがおおい。かきはじめてゴネンでそういうヘンカとあいなつた。わたしは、コウコウでリケイにすすんだわけではないが（ケイサンがおそかつた）、かんがえかたは、リケイにちかいかもしれない。あまりチシキがないから、ジユウにかんがえられている。それもよかつたとおもう。

つぎからは、（あまりにセンモンテキになるので、）わけてかこうかとおもうが、そんなにたくさんかけるかというモンダイがある。リケイのジブンも、ブンケイのジブンも、まぎれもなくジブンである。それなら、ベツにわかるヒツヨウはないかもしれない。なやましいが、いまのところそうおもっている。また、ベツに、エルガクのホンとケイザイガクのホンをだすつもりである。なにかいいドクシヨタイケンをなさつただければさいわいである。

ニセンジユウキユウネンジユウニガツニジユウニチ

エイゾウ



「タイム イズ マナー」という。ジカンはおかねのようだ。ということだ。わたしにとつても、そうかもしれない。ジュウブンにケントウしてから、なにかをはじめてもいいが、「おもいたったら、キチジツ。」ともいう。そういうキカイがあるときには、ほとんどケントウせずには、はじめたりする。たとえば、ほしいものがななわりびきでうっていたとする。ジュウブンケントウをすれば、まちがいはないだろうが、タブン、そのケツカがでるまえに、うりきれてしまうだろう。だから、ジュウブンにケントウするのは、ただしくないこともある。

ただ、ジョウホウはダイジである。あるケツテイをするとする。ジョウホウがあれば、そのケツテイをたすける。また、ヨソクされたジョウホウがあれば、ケツテイまでのヨユウができる。なにもジョウホウがないと、ウオウサオウするようだが、ジョウホウがあれば、おちついてハンダンができる。

そういうイミで、ジョウホウは、ヨユウをつくるものだともいえそうだ。「ヨユウ」ということは、「タイム」とおなじようなものである。「タイム」イズ「マナー」だから、おかねがかかるということでもある。

サン

なにかにひかりがあたると、なにかがみえる。それがみどりいろをしていると、みることができる。しかし、ひかりがあたらないと、みえない。よるをしっているひとなら、わかるだろう。しかし、そのものがひかるとはあまりいわれない。ジュースのカンに、ひかりをあてたら、ジュースのカンがきいろくひかったとは、あまりいわない。

もしかしたら、ひかりというデンキみたいなものがあたって、きいろいジュースのカンがひかったカノウセイがある。セイカツばめんでは、どちらでもよいだろうが、ガクモンとしては、このサはあるとおもわれる。

くろいものは、ひからない。つまり、このいろは、ひかりをあてても、ひかるハンノウをしない。だとしたら、くろいものは、ひかりのエネルギーをためられるかもしれない。ばあいによつては、ハツカするという。「ブラックホール」もやはり、そのうちハツカするのではないか。それなら、くろいものを、ひかりをためるのにつかえるのではとおもう。

よん

ギターずきのエークンがいたとする。このひとは、ショウライテキになにをかうであろうか。ゲンとかピックがうれそうだ。エレキギターだったら、アンプもかうかもしれない。

このように、ショウヒには、ドウセンがある。つまり、シュミから、ものへというつながりである。わたしはちいさいころ、めぐまれていたので、マンガとか、テレビゲームとか、ガツキとか、オンガクソフトというシュミがあった。しかし、かうばかりでは、おかねがへるイッポウである。テレビゲームはやらなくなったが、シイデイはかったりする。マンガは、マンガでなくて、ホンをかうようになった。ガツキもかうことがある。

こういったシュミにおかねをつかうから、おかねがたまらない。もうすこし、シュミをけずるといいかもしれないが、いまのところできていない。こういうシュミだから、まちにでも、ホンヤにいたり、シイデイにいたり、ガツキヤにいたりする。しかし、サイキンはあまりいかなかった。コンピュータネットワークハンバイがあるからである。そういうイミでは、フツウのみせは、ケイエイテキにきびしいのではとおもう。

ゴ

ガツキのエンソウカをイチニチやとうと、ナンマンエンかはかかるだろう。そのひとは、ガツキにゴジユウマンエンぐらいかけているかもしれない。しかし、いまでは、ガツキをひいたおとをうっているので、ニマンエンあれば、そこそこのおとがならせる。つまり、ニマンエンぐらいでガツキのギジテキなエンソウカをやとえてしまふわけだ。

しかも、ニジカンだけではなく、ムセイゲンだ。オーケストラもイチニチやとつたら、ヒヤクマンエンはするだろうが、ヒヤクマンエンあれば、やはり、オーケストラのおとをあつめたソフトウエアがかえる。

そういうイミで、ガツキのエンソウカにはきびしいジダイかもしれない。オンガクガツコウにいつて、ゴヒヤクマンエンぐらいかけて、ガツキにヒヤクマンエンかけたとしても、ニマンエンのおととシヨウブしなくてはいけない。サンビヤクバイすぐれていなければならぬといとなる。もしくは、サンビヤツカイしごとをするようだ。それはむずかしいだろう。だから、エンソウカをめざすひとは、へつていきそうだとえるだろう。

ロク



ニホンにはかつて、コウドケイザイセイチヨウキがあった。しかし、キュウジュウネンダイからは、レイセイチヨウ、ないしは、テイセイチヨウである。イッタイ、そのジキといまどでなにがちがうのか。

ひとつは、「シヨク」がゆたかになったといえるだろう。わたしはこどものころ、キュウリをさんだサンドイッチをたべたし、かつぱまきもたべた。パンをたべるにしたって、バターではなく、マーガリンだ。ジュースには、スウジュツパーセントのカジュウとサトウとチヤクシヨクリヨウがはいっていた。それが、ナンマイものハムがはさまったサンドイッチ、テツカマキ、バター、ホンモノのジュースとかわってきている。

わたしのばあいだが、それだけシヨクがゆたかになった。ただそのブン、チヨキンがむずかしくなるだろう。コウツウにしたって、いまはくるまをかうひとがおおいだろう。しかし、わたしのおやじだって、くるまは、かりるか、チュウコシヤにのっていた。

わたしのおやじはカイガイテンキンもしたサラリーマンである。そのおやじがシンシヤをかわなかつたということは、テイセイチヨウジダイのサラリーマンが、シンシヤをかえるというのにギモンをもつリユウにもなる。ホンライテキには、くるまはそうそうにかえないはずなのだ。

セイフは、ことあるごとにケイキタイサクをする。また、コクサイもハツコウする。そのしはらいは、ジュウネンゴとかニジュウネンゴである。だから、ジュウネンゴ、ニジュウネンゴには、ニホンジンはピンボウになる。かりかえれば、やっぱりナンジュウネンゴに、しはらいをさきのばしになる。ようするに、なぜ、いま、ニホンジンがくるまをかえるかという、そのしはらいがエンキされているからだともいえよう（イチオウかつただろうが）。

それだと、ナンネンゴかに、つけがのこる。すくなくとも、くるまのダイキンブン、シヨウライつかえるおかねがへるだろう。つけをさきおくりにするということは、シヨウライまずくなるわけだから、そのブンチョコキンがヒツヨウだろう。だから、チョコキンをしたホウがいい。それはカクジツなのだ。いま、たのしむか、あとでクロウをしないかのセンタクだろう。

「バブル」は、カコのことのようにおもわれがちだが、まだバブルをやっているようにもおもう。コンドはギンコウでなく、コジンがこまる。ななジュウネンダイくらいのカツスイジュンだったら、ケイザイはイジできるとシサンした。いまのレベルはそうつづかないだろう。もっとタンジュンというと、えどジダイのセイカツをならえればいいだろう。

シチ

「ひかり」がひかるのか、「もの」がひかるのかというモンダイがある（●サン）。しろいおきものにひかりがあたると、しろくみえる。これはすでにわかっていることである。また、くらいところで、しろいおきものをみても、すがたはとらえられない。フツウはひかりが、しろいおきものをたしてしているようにおもわれているだろうが、わたしは、ひかりというデシキのようなものが、おきものにあたつて、しろくハツコウしているとかんがえる。つまり、おきものは、てらされているわけではなく、ひかっているわけだ。

ひかりは、ひかっているというイミがあるだろうから、タイヨウウからでたそれは、「ひかり」というより、「ひから（せている）」である。それでも、ひかりは、ひかっているというかもしれない。プリズムをとおすと、いろんないろがみえる。だから、ひかりはひかっているんだ。というかもしれない。しかし、それは、プリズムがあつてのいろである。テレビだつていろんないろがでる。タブン、くろいいたに、いろんないろをうつしだすことがカノウなのではないか。「ひから」シダイでうつるいろがかわるとおもわれる。

なにかのオンドをひくくすると、コタイになる。ギャクに、たかくすると、エキタイからキタイになる。ウチュウがひろがつているというのは、オンドがたかければ、キタイがおおくできて、ボウチヨウする。それでも、ボウチヨウのゲンカイはあるだろう。また、オンドがひくいところもあるだろうから、エキタイやコタイもあるはずである。

わたしは、ウチュウは、おおきなチキユウみたいなものだとかんがえている（●『ウ』ヒャク  
ななジュウニ、『ウ』ヒャクよんジュウ、『ウ』サンジュウハチ、『ウ』ニジュウイチ、『ウ』よん、『ス』ヒャクサンジュ  
ウロク、『ス』ヒャクニジュウロク、『ス』ゴジュウキユウ）。あとニヒャクネンはやければ、おおがねもち  
になったかもしれない。なんのことか。ウチュウのそとのホウにはネンリヨウがありそうなのである。チキユウでは、それをそとがわからほつてカクニンされている。セキユである。  
まあ、チャレンジャーだからしかたがない。

ときおり、わたしはジカンリヨコウのはなしをしている(●『ウンドウはすべてエレクトリック』『イカ、『ウ』』ヒャクニジュウなな、ヒャクよん、ロクジュウハチ、『スーペリアーをみつけた。』『イカ、『ス』よんジュウニ、よんジュウイチ、ジュウキュウ、『オンガクイチエンのジダイ』『イカ、『オ』ゴ、『よろこぶゲンシジン』『イカ、『よ』ニジュウイチ)。それだと、ダイタイカコにそこにいたというザヒョウにもどれば、「ジカンリヨコウ」ではないかということだ。

しかし、コンカイはホントウのジカンリヨコウができるかもしれない。いや、ジカンリヨコウというか、デジエネレーション(タイホ)である。それは、どうやればできるか。エル(ウンドウ) イコール ダブリユエー(あたたかさ) わる ダブリユ(シツリヨウ)である(●『ウ』ヒャクニジュウキュウ、『よ』サンジュウニ、ニジュウハチ)。このダブリユエーをソウサする。つまり、ジカンをもどしたいブンをひやすのである。

チキュウをひやしてもいいし、ウチュウゼンタイをひやしてもいい。シキでは、ダブリユエーがマイナスになる。したがって、ウンドウもマイナスになる。エルイコールテイ(ジカン)(●『ウ』よんジュウ、『よ』サンジュウニ)だから、ジカンがギヤクにながれることになる。ウンドウのむきがかわるといふわけだ。しかし、それをやってもおもしろくないだろう。たまたまに、ドウブツなどをこおらせてホカンするというはなしがある。そこからソセイさせるの

はむずかしいらしいが、まあ、そういうはなしである。

ジユウ

よつつのコウセイにトウカンカクでかこまれたほしは、インリヨクがつりあつてうごかない。これをわたしは、「デッドロック」とよんでいる（●『ウ』ロックジュウキュウ、『ス』ヒヤクなな、『ス』ヒヤクよん、『ス』ニジュウ）。まわりのコウセイのインリヨクがつりあつてゐるから、ジー（ジユウリヨク）がレイのようになる。カンゼンなレイではないが、それを、「アクティブレイ」といおう。

とにかくレイっぽい。アンガイウチュウのなかのコウセイなり、ギンガのハイチはそうやって、うまくつりあつてハイチされているのかもしれない。セイテキハイチである。もし、そういうつりあいが、まだとれていないとしたら、うごきがさかんはずである。ニンゲンもレキシのなかで、ハイチをそれぞれがまのあるようにしてきた。そういったアクティブレイのハイチのウチュウかもしれない。

## ジユウイチ

ニホンはジシンののおおいくにである。ハチネンまえのトウホクのジシンのときには、キンキュウジヨウホウがわたしのケイタイデンワにはいった。それもフダンとはちがうケイコクオンつきでだ。

うちはチメイテキナソンシヨウはなかったが、かべにひびがはいたり、タイルがわれたりした。それからというもの、そのキンキュウジヨウホウのおとがこわくなった。シンリガクでいう、ジヨウケンづけである。ビーというサインあって、いやなエーがハツセイするばあいは、ビーがこわくなるというはなした。

まあ、それはともかく、ジシンというのは、チカクのウインドウといわれている。つまり、エル(ウインドウ)であるわけだ。エルイコールイー(デンキ)である(●『ウ』よんジュウゴ)。

そのために、チカクのデンキをとらえられれば、ジシンはヨソクカノウとなる。

デンキなまがヨチできるといふ。やっぱりこれも、デンキである。そのギジュツをたかめたら、ヒガイはへるとおもふ。もっとダイタンにやれば、ゆれがおこるといふハドウのギヤクにそれとドウヨウのおおきさのハドウをおこして、ジシンをうちけすといふホウホウも

あろう。ジシンはシンゲンからエンジョウにそとへむかってひろがるようだ。これは、いけにいしをなげこんで、ハモンがひろがるのににている。このハモンをとめるのはむずかしいというか。タブン、ギャクにかわらからいしをとりだせば、ギャクホウコウのハモンができるだろう。それはどういうことかというのと、ジシンをチュウワするのは、リロンテキにはカノウということである。ただ、シンゲンから、なにかおおきいものをとりだすのは、ギジュツテキにむずかしい。そういうカダイはある。

## ジュウニ

テレビキョクのうりあげがおちたなどということがある。テレビのキカイはニホンジンのいえにダイタイおかれているだろうが、ホウソウをみるひともいれば、みないひともいる。わたしもニュースとサツカーぐらいしかみない。そんなかんじだから、ガメンがおおきいホウがいいとおもわず、キョクリョクちいさいホウがいいとおもっている。キュウジュウネンダイからパソコンがフキュウはじめ、オンガクやドウガがみれるようになった。そのため、テレビよりも、パソコンでドウガをみるひともおおいだろうとおもう。サイキンでは、



ケイタイデンワでみることもできるらしい。

もし、そうだとすると、テレビキョクのうりあげがおちることは、わからなくない。ドウガトウコウサイトにも、テレビとおなじようにコウコクがはいる。そういうわけで、キョウソウになっているといえるだろう。このキョウソウはどっちがかちそうなのか。

ハードウェアをくらべてみれば、テレビキョクが、ナンジュウ、ナンビヤクオクとするたてものをホユウし、ナンゼンニンもやとっているのにくらべ、ドウガトウコウサイトは、スウカシヨに、サーバーとなるコンピュータとオペレーターをもっているだけだろう。つまり、ヒョウが、ドウガトウコウサイトのホウがアットウテキにすくないだろう。これでキョウソウをつづけければ、いまのところ、ゴブゴブだとしても、シュウエキで、ドウガトウコウサイトにグンバイがあがる。

もし、かぶぬしのリエキをサイダイゲンにかんがえらるとするなら、ドウガトウコウサイトのホウがこのまれるだろう。しかし、コウキョウセイというかんがえかたもある。それをふくめて、テレビキョクがどれだけがんばれるかではないだろうか。タクサンセンタクシがあったホウが、シチョウシヤはゆたかだが、テレビキョクは「コウキョウセイ」をおもんじるにせよ、フクシでやっているわけではない。シュウエキがでなくなれば、テツタイというこ

ともかんがえられる。

ヒヨウをへらすドリヨクがフツウのカイケツサクかとおもうが、ニホンでは、なかなかやりづらいだろう。だから、いつまでもつかというところではないだろうか。

ジユウサン

ニホンジンは、ヤクハチジユウネンまえのセンソウのヒガイをたてなおすために、センゴ、トクにはたらいたという。わたしのおやじもそのひとりである。センチュウ、センゴに、あまりよいたべものがなかったとき。たまに、「ハングリーにはたらいた。」などという。まあ、そうだったんだらう。ケツカ、ケイザイセイチヨウもキロクされている。バブルとよばれるハチジユウネンダイからキュウジユウネンダイシヨトウにいたるまで、それはつづいた。バブルのころから、フランスリヨウリだの、イタリアリヨウリだの、そういうのをたべるようなひとがでてきたという。わたしもどちらかというたとべたホウだ。わたしのおふくろがつくるリヨウリは、わたしがおさないころから、そうかわっていないが、わたしのいえのちかくにインシヨクテンがサンケンふえた。それだけシヨクヒにおかねをかけるようになって

たということだろう。その、「ハングリー」がつづいたのは、ハチジュウネンダイまでなんだろうか。シヨクがよくなって、キユウジュウネンダイにほぼセイチヨウなしになっていまにいたる。

シヨクたりて、ケイザイセイチヨウなしと、まあ、ヘイワなようだが、コクサイキョウソウなどをかかんがえると、それでいいのだろうかとおもう。センゴは、ほぼひとしく「ハングリー」だったが、いまは、「ハングリー」なひともしれば、もつとたべるといふひともしるだろう。ヨウするに、「コセイ」だのとイチジキいわれたが、コジンセンなのだ。がんばりたいひとは、がんばるし、がんばらないひとは、がんばらない。そういうジダイなのだとおもう。いまは、こどももすくなくなつて、ひとりですんでいくひとでもでくる。だから、ヒヤクネンゴのためにがんばろうというのは、キョウツウのモクヒヨウとしてはむずかしい。がんばるひとも、キョウソウからおりるひとも、まあまあうまくいけばいいとおもう。

ジュウよん

もっているゆめをジツゲンするために、アルバイトをしてシホンキンをためて、しごとを

やりだすというはなしは、わたしがジュウダイのころにきいていた。しかし、わたしのカンシンがあつたロックオンガクのばあい、アルバイトして、シホンキンをためて、しごと、エンソウをしたというはなしはきかなかつた。そうやって、はじめにミュージシャンになつたひともいるだろうが、そういうはなしはしらなかつた。どちらかといへば、のみあるいてゐるみたいにおもつていた。

しかし、それはおおまちがいだらう。タブン、ヒツヨウなドウグであるガツキがコウガクなために、なかなかシホンキンをためられなかつたのだらう。チホウをまわるとなれば、くるまもヒツヨウだ。エンソウするバシヨ「ライブハウス」も、キヤクがすくなければ、ミュージシャンのフタンとなる。そうやって、あげてみると、ミュージシャンとして、セイコウなり、しごととしてセイリツするようになるのはむずかしいとわかる。

わたしは、イジヨウのことをリカイしていなかつたが、オンガクがすきだつた。しかし、つきあいだなんだで、なかなかジブンでキョクをつくることができなかつた。それで、イチジクオンガクをチュウダンした。そして、いまごろになつて、またオンガクをやつてゐる。やつてみるとわかるが、わたしのつくるロックオンガクは、そううれるほどではないし、ロックオンにサンカゲツかかるし、つかれる。だから、いま、それはあまりつくりうとしてい

ない。かせげないしごとイコールただしくない。とかんがえるのだったら、すぐにやめたホウがいいだろう。なにしろ、ジユウゴキヨクきかせて、イチエンをもらうジダイだ(●『オ』ヒヤクサンジユウハチ)。だから、イチジカンのあいだにジユツキヨクつくれると、シユウエキがでるかもしれないが、まず、そういうことはできない。

まあ、やってみて、そういうジユウキヨウがわかったから、そんなにちからをいれていない。シユミとしてできればいいのではとおもう。ただ、このさきのニホンにおとずれるであらう、ただばたらきのジダイ(●『ウ』ゴジユウなな)をかんがえると、どうなのかとおもう。でも、ガツキをかつているようじゃだめだろう。いまおもうと、コウコウのときに(オンガクをやるモクテキだとしても)、アルバイトして(おかねをためて、)ばあいによつては、センモンガツコウ、ダイガクにいけばよかったとおもう。おかねはつかいみちをかえられるからだ。

ジユウゴ

わたしは、わたしのギジュツリヨクがヨーロッパにくらべて、ニヒヤクネンおくられている

とおもっている（●『ス』ヒヤクサン）。まえにもいったように、ニヒヤクネンはやかかったら、セキユをほりあてて、おおがねもちになつていただろう（●『ひ』ハチ、『ウ』ヒヤクよんジュウ）。

そのおくれを、ニバイのはやさでおいかけると、ゲンジヨウのスイジュンまでヒヤクネン。それからのシンポに、ゴジュウネン、ニジュウゴネン、ジュウニテンゴネンとかかり、ケツキヨク、おいつくまでにニヒヤクネンかかる。

このダンダンハンブンにしてケイサンするところがおもしろい。イツキにニヒヤクネンかかることをいえるひともいるだろうが、ジュンジヨをおつてケイサンするとそうなる。これは、シヤツキンのケイサンにもつかえらとおもう。

ニヒヤクマンエンかりて、ニバイのはやさでかえしたら、などである。ニバイのはやさなら、キンリがとつともなくなかくなければ、かえせるだろう。ところが、ニブンのイチのはやさだと、さきのようにケイサンして、キンリがないとしても、ようやくかえせるとなる（ヒヤク、ゴジュウ、ニジュウゴ、ジュウニテンゴと）。

なぜ、そのようにケイサンするか。それは、つぎのシユンカンに、べつのものにおかねをつかっているカノウセイがあるからだ。だから、これがめやすとなる。つまり、たかいものをかうとしても、キュウリヨウのニバイにおさえなさいだ。だから、そうカンタンにくるま

はかえない。かうのだったら、チヨキンをするようだろう。

これをまもらずに、キュウリヨウのサンバイのものをかうと、そのケイサンでは、ロクジユウロクパーセントしかかえせない。つまりハタンだ。だから、それをしてはいけない。しかし、ニバイだとしても、マイカイにそれをする、やはりハタンする。だから、シュツピのレイケイをキュウリヨウのニバイにおさめるといいだろう。また、キュウリヨウのイチバイに、レイテンゴバイにおさめれば、チヨキンもできるであろう。

## ジュウロク

ニホンでは、よくくるまがみられる。それだけうれたということだ。しかし、それをもとがとれるくらいつかっているだろうか。ニヒヤクマンエンのくるまがあると、これに、ネンリヨウをおなじニヒヤクマンエンブンかえば、イチマンサンゼンリットルになる。イチリットルでサンジュツキロはしるとすると、ヨンジュウマンキロメートルはしることになる。ただ、ヨンジュウマンキロメートルはしらせるとはすくないだろう。つまり、このキジュンでいえば、くるまをかうひとはダイタイソンをしているといえそう。ようするに、く

るまはシヨウヒザイということだ。イツシヨウかけてのるのが、ケイザイテキといえるだろう。

ジユウシチ

ものをつくるのに、セツケイをすることがある。タブン、いまではセツケイズをかいてから、つくりはじめることがおおいだろう。タブン、セツケイズは、エンキンホウをつかつてかくと、ゼンタイがわかりやすいだろう。しかし、セツケイズのないセイヒンもある。

それは、たとえば、トウゲイセイヒンである。ホンタイをつくって、えをいれる。そういうセイヒンもある。これを、セツケイズのないセイヒンとよぼう。こういったセイヒンはシヨクニンがつくっている。いまのフツウのひとはセツケイズをかいてから、セイヒンをつくるだろうが、シヨクニンは、セツケイズをかかずにセイヒンをつくる。こういうちはあるとおもう。

ジユウハチ



フツウのくには、ダイタイゼイキンをとる。ハウジンゼイやシヨトクゼイなどである。しかし、くにはがセイヒンをつくるカイシヤのようだったらどうか。むしろ、うりあげから、ジユウギョウインにキュウリヨウをはらうようだろう。ゼイキンのようなものはいらない。

くにはがつくえをニコつくって、エーさんとビーさんにそれぞれゴヒヤクドルでうったら、くにはにセンドルはいる。くにはがニヒヤクドルぬいて、それをつくったエーさんとビーさんに、よんヒヤクドルずつしはらわれれば、まあまあうまくいっていることになる。

しかし、くにはのカンリコストのニヒヤクドルがつかわれれば、エーさんとビーさんがヒヤクドルずつまずしくなる。ただ、くにはにあるニヒヤクドルがうまくつかわれれば、イチジテキに、エーさんとビーさんがまずつただけで、ケイザイはまわる。くにはがそのかねで、シーさんにニヒヤクドルはらってヤサイをつくらせれば、またヒヤクログジュウドルをシーさんにはらってケイザイはまわる。

このレイでも、やはり、くにはがゼイキンをとっているといえるだろうか。ニジュツパーセントをくにはがあずかる。ほとんどジンケンヒだろうが、ゼイキンとよべなくもない。これで、うまくひとびとのほしいものと、つくるもののチョウセイができれば、これはカノウだろう。

ジユウキユウ

わたしがダイガクセイのところ、ガクヒをはらうためにアルバイトをしていた。あさゴハン  
は、ハンバーガーだった。ベンリなバシヨにシヨウテンがつくられていたので。また、そ  
れはトウジ、フケイキのせいもあってやすかった。いまかんがえると、それがなかったら、  
シヨクバでのロウドウや、ダイガクでのガクシユウにシシヨウがでていたのではないかとお  
もう。

ニホンジンは、さかなをよくたべるが、アンガイ、さかなをすばやくたべられるみせはす  
くない。だから、ハンバーガーだったのだろう。えきには、たちぐいそばもあるが、そばで  
は、あまりチヨウジカンはたらないきがする。タンパクシツがあるかないかというはなし  
だ。

ニホンジンは、センゴ、ガツシユウコクのコむぎをユニユウして、パンなどをつくってた  
べた。そのうち、ギユウニクもいれるようになった。これらをたべることがおいひとは、  
ジミントウタイシツ（●『アルクカラカンガエル』『イカ』『ア』ヒャクヨ）である。こめやさかななど  
のニホンサンのシヨクザイをたべ、なおかつ、ガツシユウコクサンのシヨクザイもたべる。

ケツカ、からだのセイブンは、ニホンサンと、ガツシユウコクサンでコウセイされる。だから、こういうひとは、ガツシユウコクのひととケンカできないであろう。それが、「ニチベイドウメイ」ということばにもあらわれている。それで、どうするのかというのが、コンゴとされるだろう。しかし、そのまえに、カンシヤをわすれぬことである。

## ニジユウ

ニホンのダイガクのジュンイがおちているという。ほかのくにをふくめたはなしである。それはわからぬわけではない。ニホンジンのノウリヨクがひくくなっているわけでもないだろう。しかし、ニホンジンがみつけたチケンがほかのくにとくらべて、すくなくなっているのだろう。つまり、なにがいたいのかというと、ガクモンをユニユウばかりしているということがある。

いまのニホンのシヨクリヨウのジキュウリツは、よんジュツパーセントという。それとおなじように、ガクモンのジキュウリツが、おちているのではないかとおもわれる。もつといえ、どれだけダイガクをユニユウしているかである。ノウサンブツのなかには、おもしろ

いものがあつて、うなぎなんかは、ほかのくにでそだてて、イツカイニホンのみずうみにはなせば、「ニホンサン」となるらしい。ガクモンは、チテキザイサンだから、それらをユニウして、「ニホンセイ」とするわけにもいかない。だから、やはり、ジキュウリツをたかめるヒツヨウがありそうなのである。

## ニジユウイチ

かつおぶしは、ニホンジンのハツメイヒンという。それをけずつて、おゆのなかにいれてだしをとる。そしてそのだしをつかう。これはよくあるニホンリヨウリである。

しかし、モンダイなのは、だしをとったあとのかつおぶしをどうするかである。いってみれば、かつおぶしは、からだで、だしは、あじである。タブン、そのからだには、タクサンのタンパクシツがふくまれているだろう。だしは、あじだけだろう。だから、そのからだをすててはもつたいたないだろう。それは、ロウヒのようなきがする。うまく、だしをとったあとのかつおぶしをつかえればとおもう。

## ニジュウニ

エル（ウインドウ）イコール ジー（ジュウリヨク）とかいた（●『ウ』よんジュウゴ）。また、エル イコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリヨウ）でもある（●『ウ』ヒヤクニジュウハチ）ということは、ジー イコール ダブリュエー わる ダブリュとなる。

ようするに、あたたかいほど、ジュウリヨクがつよいわけである。これで、なぜ、コウセイに、ジュウリヨクがあるかセツメイできるであろう。チキユウも、なかがもえているから、おなじリユウだ。つきのジュウリヨクがチキユウとくらべてちいさいというが、それはなかのオンドがひくいから、シツリヨウがおおきいのである。これらのふたつのスウチをはかれば、みつつのスウチがだせるだろう。

## ニジュウサン

エス（ソクド）イコール デイ（みちのり） わる テイ（ジカン）である。テイ（ジカン）イコール エル（ウインドウ）である（●ホンシヨ「イカ、ムヒョウキ」キユウ、『ウ』よんジュウ、『よ』サン

ジユウニ)。エルイコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒヤクニジユウハチ）。これをセイリすると、エスイコールデイわるダブリュエーわるダブリュとなる。

これでなにいえるかといえ、あたたかさがひくいほど、ソクドがおおきくなる。もしくは、ソクドがおおきいほど、あたたかさは、ひくいということである。イッパンテキにはひかりが、イチバンはよいとされるが、もつとひやせれば、ソクドはあがられるかもしれない。

## ニジユウよん

ミンシユシユギは、オウベイやニホンではいいものとされている。しかし、これが、シユウグセイジにかわるといふシテキもある。それはカンタンである。だれもがリエキをもとめて、ミンシユシユギをやればそうなる。ゲンゼイをうたえば、フツウのひとのリエキになる。だから、ヒョウがあつまって、そのギインたちがトウセンし、ジツサイにゲンゼイして、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。キュウリョウのガクをあげるといえば、や

っぱり、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。

しかし、やがてセイフやケイザイがヒヘイする。だから、リエキをおもじるミンシユセイジでは、だめなのだろう。

## ニジュウゴ

そこをあるけば、タクサンのくるまがはしっているのにきづく(●『ウ』ロクジュウ)。わたしは、ニホンのケイザイトウケイをみると、なぜ、そんなにくるまがはしっているかギモンがわく。わたしのおやじは、カイガイでキンムしたことのあるカイシヤインだったが(●ロク)、シヨウガイ、くるまはかわなかった。いや、チュウコシヤをかっていた。そのおやじは、のみにいくこともしなかった。かおうとおもえばかえたはずだが、それはしなかった。

ニホンのケイザイセイチヨウキをいきたひとである。そのキジュンでかんがえてみれば、タブン、いえをかうようなサラリーマンはくるまをかえないはずである。だから、ボウトウのギモンもマツトウといえるだろう。ニホンジンのシヨウヒがよわいなどというが、そもそもかえないのではないか。ケイザイセイサクによって、かえるキブンになって、くるまをか

っているような気がする。ショウライからのシャツキンというやつである。いまのジダイは、ひとのまねしていきることは、かえってあぶないという気がする。

## ニジユウロク

キユウジユウネンダイから、ニホンでは、コンピュータをつかえるひとがつよくなった。それは、また、コンピュータカンレンのしごとをするひとがかせぐようになったということもある。コンゴは、エーアイだの、ロボットなどといわれる。だから、エーアイやロボットカンレンのしごとをするひとが、かせぐだろうとヨソクできる。

だから、そのためのキョウイクをしたらどうかとおもうが、どうもそんなはなしはないよ。うだ。せいぜい、コンピュータのプログラムのガクシユウである。それではニジユウネンイジヨウおくられている。そのこたちがおおきくなり、ケツカがでるころには、よんジュウネンテイドおくられることになる。それでいいのだろうか。

いまから、エーアイのガクシユウをはじめても、ケツカがでるまで、ジュウゴネンとかかる。エーアイをつかえるジンザイ、つくるジンザイ、にかてるジンザイはヒツヨウである



うが、まだそういうはなしはきかない。あまりさきことは、かんがえていないのかもしれない。

ニジユウシチ

ダイガクにいくのがいいとおもわれているふしがある。たしかにダイガクにいけば、チシキのリヨウはふえるだろう。しかし、それは、キホンテキに、だれかがかんがえたことなので、たとえれば、あつかうことのできるブヒンがふえたにすぎない。

そうやって、あつかうことのできるブヒンをふやすこともいいが、やっぱり、ジブンでブヒンをつくるのがダイジだろう。それが、タブンいいブヒンやである。

ニジユウハチ

ジュケンキョウソウなどという。ジュクにかようこどももいるだろう。そうやって、いいダイガクをめざす。しかし、ギモンなのが、コクサイテキなヒョウカで、サンジユウイのダ

イガクにはいった、ソツギヨウしたでいいのかということである。

ニホンで、イチバンのダイガクでもそんなかんじである。つまり、ニホンでベンキョウのヘンサチがハチジュウあるといったって、そのテイドである。それなら、ベツのことにジカンをかつたホウがよくないか。オフロードもダイジとおもうのである。

## ニジュウキユウ

カイガイでは、シュウキョウカはソッケイされるといふ。しかし、ニホンでは、あまりそういうはなしはきかない。なぜ、シュウキョウカがソッケイされるかというのと、ドクシンで、かみにつかえるからだろう。

つまり、こういうことだ。もし、そのひとがカゾクをもっているばあい、かみのおしえと、かれのハイグウシヤのかんがえがフイツチになったとき、どちらをとるかなやむだろう。ばあいによっては、かみのおしえをまもり、ばあいによってはハイグウシヤのことをきく。

ようするに、シュウキョウをとるか、カゾクをとるのかというセンタクになる。カゾクをとつたとしたら、シュウキョウカとしてはシツカクだろう。それなら、はじめからドクシン

で、かみにつけるといい。それで、ジツサイにそうしているわけだ。そのところが、ニホンでは、かならずしもであったりするので、シユウキヨウシャがソクセイされるといふはなしにならないのではないか。

## サンジユウ

ホウテイシキがある。そのヘンスウのブブンになにかスウジをいれると、なにかのあたいがケイサンできる。そのオウヨウのようなものがヨソクである。ビールのうりあげでもなんでもいい。かぎとなるヘンスウをニュウリヨクして、うりあげをヨソクする。そのヨソクがただしいとすると、そのつぎのヨソクもカノウとなる。それをくりかえしていくと、ミライがわかるわけである。

そのように、ミライをコテイしたいから、キセイのようなコウドウがおこなわれるともいえる。ザンギヨウキセイなどのキセイである。それをやると、ミライがよめるが、そのブン、ジユウドがなくなる。つまり、おおあたりも、おおはずれもしないわけである。だから、ジユウをもとめるひとは、キセイをきらう。ちいさいセイフのいいというわけである。「ちい

さなセイフ」とは、サイキンあまりきかないから、さきがケツコウよめているんだとおもう。

サンジュウイチ

キンユウカンワというジケンがあつた。ようするに、シヘイを、インサツキをつかつてふやしたのである。これをやると、ツウカのカチがさがつて、ブツカがあがることがキタイされる。そうやって、すこしのブツカジョウシヨウをねらつたわけだ。

しかし、やりすぎるとどうなるか。ツウカをニバイにふやせば、タンジュンにブツカはニバイになるし、サンバイにふやせば、ブツカはサンバイになる。そんなことがおこなわれていたわけだ。

しかし、いまはみえない。コジンキンユウシサンが、そのナンバイもあるというリユウがある。しかし、いつかはそれがヒヨウメンカする。いずれ、セイフフサイが、コジンキンユウシサンをおいこすからだ。サンバイのインフレになったら、かなりくらしづらいだろう。こめがゴキロで、ななセンエンというはなしである。そういうキョウフセイサクをセイフがしないように、みはつていなければならぬ。

## サンジユウニ

わかいころは、よのなかのうらジジョウがわからなかつたりする。わたしもなんとなく、コウコウへいって、ダイガクへいくものだとおもっていた。いとこがどこのダイガクにいったときかされたものだ。わたしのおやじはチュウシヨウキギヨウのサラリーマンだったが、まあ、そんなかんじだった。そして、ベンキヨウのヘンサチをあげれば、いいダイガクにいけないというしくみをリカイした。

しかし、ジブンでおかねをはらって、ダイガクにいつてみると、それは、ひとつのみかたにすぎないとわかる。なにより、コウコウにいくのにも、おかねがかかるし、ダイガクに行くにもおかねがかかる。だから、いまかんがえると、ジュケンキヨウソウなんていうのは、かねをもっているひとはなしで、かねをもっていないソウは、はたらくか、はたらきながら、ガツコウへいくことになる。だから、かねがなさそうなら、ベンキヨウなどせずに、アルバイトをしておかねをためるといいだろう。

ジユクにいつてもおかねがかかるだけだ。また、アルバイトキンシのガツコウへいつてもいけない。コウコウセイのときに、ニヒヤクマンエンでもためれば、ダイガクなり、センモ

ンガツコウにいきながら、アルバイトでガクヒをはらえるだろう。いまは、それがまっとうないきかただとおもう。

サンジユウサン

ひかりは、デンキのイツシユだとかいた（●『ウ』キユウジユウ）。デンキは、イーエル（デンキ）イコールイー（エネルギー）わるダブリユ（シツリヨウ）であらわせる（イーエルイコールエル「ウンドウ」、エルイコールイーわるダブリユより。●『ウ』よんシユウゴ、『よ』サンジユウニ、『よ』ニジユウハチ）。つまり、シツリヨウがレイなら、ひからないわけである。たとえば、コウセイから、ひかりがでたとする。とどいたさきのなにかが、シツリヨウがレイなら、それはひからない。

ウチュウクウカンもそうかもしれない。ほしは、ひかっているが、クウカンはひからないだろう。つまり、ひかるのは、うけてのモンダイだということだ。わたしたちのめには、タィヨウがひかつてみえるが、それは、うけてであるわたしたちのめに、シツリヨウがあるからだ。つまり、ひかりにドウチヨウカノウなわけだ。

サンジユウよん

ねつもまた、うけてのモンダイとかんがえられる。ねつは、ダブリユエー(ネツ) イコー  
ル イーエル(デンキ) かける ダブリユ(シツリョウ)である(イーエルイコールダブリ  
ユエーわるダブリユより。●『ウ』ヒヤクニジユウキユウ)。だから、ネツも、シツリョウがレイ  
ならハツセイしない。また、コウセイのちかくにあっても、シツリョウがレイなら、ネツが  
ない(うつらない)となる。だから、ネツデンドウセイがたかいたのは、シツリョウがおおき  
なものとなる。わたしたちも、シツリョウがあるから、ネツをかんじるということだ。

サンジユウゴ

ゼンセイキのゼンハンに、ロシアでキョウサンシユギカクメイがおこり、ソヴィエトレン  
ポウとなったという。よく、それについて、マルクスのいった、シホンカによるロウドウシ  
ヤからのサクシユがあつたから、それをただそうとした。というようなことをいう。

たしかに、かねもちだけがユウフクでは、ロウドウシヤはおもしろくない。わたしがかん

がえても、ゲンコウのシホンシユギは、リジュンをみとめるから、それがたまると、ダンダ  
ンシジヨウがまずしくなる（●ヒヤクサンジュウゴ、『ス』ヒヤクロクジュウハチ、ヒヤクニジュウニ、『オ』ヒ  
ヤクサンジュウ）。それはどうかとおもう。

しかしながら、ソレンは、ハチジュウネンならずで、シュウリヨウした。なにがモンダイ  
だったか。かねもちのおかねをロウドウシヤにブンパイしたら、「サクシユ」はカイシヨウす  
る。そこまではない。しかし、もうかねもちはいないのだから、もう、「サクシユ」のカイシ  
ヨウはできない。つまり、イツカイそのセイドをドウニユウするのはいいけれど、ずっとそ  
れでやりつづけるのは、コンナンではないかということだ。

つまり、カイカクにはユウコウであるかもしれないけれど、そのさきがない。それがアン  
テイセイケンではこまるということだ。ずっとカイカクをしつづけることはコンナンだった  
のだろう。ただ、ハチジュウネンでおわったというケツカがでた。ニホンでも、そういうセ  
イトウは、はやらない。さきがないからであろう。

サンジュウロク



なにかをもやすとひかりがでる。タイヨウコウハツデンをしているらしいから、たしかに、ひかりがでてくるんだろう。ニクガンでもカンソクできる。このもえているものと、ひかりはハンパツするカンケイかもしれない。

もえているものもヨウキヨク（プラス）で、ひかりもヨウキヨクということだ。ジシヤクをかながえれば、わかりやすいだろう。そうでないと、ひかりがはなされるリュウがよくわからない。ただ、ブラツクホールのばあいは、インキヨク（マイナス）なのだろう。だから、ひかりがあつまる。ひかりはどこへいくか。つまるどころ、インキヨクのところへいくんだとおもう。

サンジユウなな

テロは、シヨウキボにおこる。それがおこなわれるリュウは、なにかへのテキタイシンないろいろなリュウがあるだろう。タンジュンにいうと、ごくちいさなセンソウである。それをおこしたひとは、ケイジサイバンをうけるというより、ころされるだろう。それが、タクサンおこるとすると、チアンがわるいとなる。だから、ふせこうとするが、なかなかむず

かしいようだ。さいわい、ニホンでは、まだおこっていない。

それはわるいようであるが、メリットもある。どういうことかというところ、そのブン、おおきなセンソウをしなくてすむわけだ。おおきなセンソウは、ヒガイもおおきいし、おかねもかかる。だから、ごくちいさなセンソウですめば、セイジカにとって、わるいはなしではない。しかしながら、ニホンでは、そういうニンシキがすくないかのようなようである。ボウエイヒをつみあげているからだ。そういうセンソウもあるんだということをおぼえておいたホウがよい。

サンジユウハチ

イシキはサイボウにあるとかいた（●『ウ』ヒヤクジュウよん、『ス』ヒヤクジュウよん、キュウジュウよん、キュウジュウサン、キュウジュウイチ、ハチジュウロク、よんジュウサン）。タンサイボウセイブツでもいきられるからである。

サイボウといえ、タンパクシツをフクセイするキノウがそなわっている。イデンケイである。イデンシは、カガクブツシツのあつまりだが、それにイミがあるとされる。それによ

って、コタイのケイシツやキノウにサがでるからである。つまり、イデンケイはジョウホウをあつかっているといえる。ジョウホウというより、グタイテキナブツシツなのだが。

そうならば、カンジョウのようなジョウホウをあつかってもおかしくないだろう。やっぱり、ものをあつかうかもしれない。おこったときには、あるブツシツをゴウセイするようなのである。そうすると、ノウよりサイボウなのかもしれない。しかし、ノウがおおきなウンドウをうけもっているから、ニンゲンはうごけるともいえる。どちらもダイジであろう。

サンジュウキユウ

エイゴで、「わたしは、マルマルをシンコウしています。」ということをも、「アイビリーブインマルマル。」という。ここでのマルマルには、「カミ」というタンゴがはいるわけだが、このブンをみると、どういうセカイカンかわかる。それは、「カミ」のなかに、「ビリーブ」があるということだ。つまり、わたしたちのイシキは、「カミ」のなかにある。というセカイカ  
ンだ。

ニホンで、そういうセカイカンをもっているひとが、どれくらいいるかわからないが、ど

ちらかといえ、ば、「カミ」が「ある。(いる。)',「ない。(いない。)」といったもののようなとらえかたをするのではないか。もしそうだとすると、「アイビリーブ マルマルアウト オブ ミー。」となるだろう。それだと、かなりセカイカンはちがうだろう。

また、ニホンでは、「カミ」がおおいから、ジブンのガイメンにテイイさせるとおもわれる。ある「カミ」は、「エー」といい、また、ベツの「カミ」は、「ビー」といったとする。そうすると、そこにトウイツテキなケンカイをもつことは、むずかしくなる。だから、タンジュンに、ある「カミ」は、「シー」といった。と、そのままリバーブ(エコー)するサホウが、もっともエネルギーをつかわないから、ダイタスウにサイヨウされそうだ。

そういうサホウをレンゾクすると、「だれが、『バツバツ』といった。」などと、デンブンケイのコミュニケーションをとるタイドとなるだろう。だから、ニホンジンは、カガクをしづらいといえる。だれかのいったことを、そのままにするからである。

イッポウ、オウベイでは、かれらが、「カミ」のなかにいるわけだから、「カミ」をさがそうとするかもしれない。「カミ」とはなにかとどうかもしれない。だから、はじめはシンガクでも、シゼンカガクへとハツテンするわけである。おおくのニホンジンなら、あの「カミ」がそういつていたから、そういうことにしておこうとなるだろう。そこが、ギジュツリヨク

のサになるとおもう。

よんジュウ

いまは、ホウリツのアンをコツカイギインがギロンするが、コンピュータネットワークをつかって、コクミンにやらせたらどうか。ホウアンのハツギも、タシヨウのコツカイギインがやってもいいが、コクミンからハツギするわけだ。ようするに、コジンがアップロードして、ギロンするのである。

サイケツのばあいは、サンセイかハンタイをデンシコクミントウヒヨウすればいい。イーメールで、マルガツバツニチのゴジまでにトウヒヨウしてください。とやればいいわけだ。ギロンヨウのケイジバンのようなしくみもヒツヨウだろう。これらをひるまにやると（ひるまにやってもいいが）、フツウのロウドウシヤはおきざりになってしまうので、ゴゴシチジイコウなどに、ギロンするわけである。

ムリにギロンしなくてもいいが、テキトウにサイケツして、ホウアンなどをきめる。テレビなんかをみているより、このホウが、シヤカイのことをかんがえるので、まともであろう。

ニジカンくらいでもいい。これなら、かつてはあったといわれる、チョコセツミンシユセイができる。ケイヒもやすくあがるのではないか。

よんジュウイチ

ジブンでしたしごとは、ジブンのシサンになる。だれかにたのまれたしごとや、カイシヤのしごとは、ジブンのシサンにはならない。ただ、かわりにおかねをもらえる。だから、カイシヤをはなれてしまったロウドウシヤは、シサンがなくなってしまう。

それだと、あたらしくなにかをやるのもタイヘンだから、てあついコヨウでまもる。しかし、それもあやしくなってきた。ほかのひとに、ジブンのシサンをサユウされたくないのなら、ジブンでしごとをすればよい。しつかりやれば、ドンドンシサンがふえるであろう。パソコンのソフトウェアのように、コピーをうれば、もとではへらない。

よんジュウニ

イーエル（デンキ） イコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリヨウ）である（●『ウ』ヒャクニジユウキユウ）。このうちみえるのは、ダブリュであろう。チャワンがそこであればみえる。これは、ひかりがあるためである。ひかりがなければ、シツリヨウはカンサツできない。まわりがひかっているか、そのチャワンがひかっているか（●サン）は、さておき、ひかっているか（めにみえれば）、シツリヨウは、カンサツカノウだ（ただ、ケイサンではかることはカノウであろう）。だから、そのひかりをシツリヨウとカテイする。

そうすると、イーエル イコール ダブリュエー わる エルアイ（ひかり）である。とはいっても、ものはものというかんがえかたがつよいので、イーエル イコール ダブリュエー わる エム（モノ）や、イーエル イコール ダブリュエー わる カッコ エム たす エルアイ カッコなどとしたホウがいいかもしれない。

しかし、デンキというゲンシヨウメンでは、ひかりと違ってしまってもよいのではないか。しかし、モンダイもある。それは、タイヨウのデンキリヨウ（ダブリュエー わる エルアイ。）と、ライターでつけたひのデンキリヨウが、ヒリツがおなじだとすると、おなじかずつてしまう。つまり、どちらも、「イチ」のカノウセイがある。そうすると、タブン、ジツサイ テキナハツデンリヨウは、タイヨウのホウがおおきいはずだ。それをどうかんがえるかとい

うモンダイがある。

それを、おおきいデンキ「イーエル エル」とちいさいデンキ「イーエル エス」とわけてかんがえれば、カイケツする。しかし、それなら、デンキのダイシヨウについてのギロンがヒツヨウであろう。タンジュンなのは、なにかのチョツケイと、たとえば、あたたかさはかかるわけである。だから、イーエルイコールダブリュアイ(チョツケイ) かけるダブリュエー わる エルアイとなるわけである。

よんジュウサン

さきのシキでは(●よんジュウニ、イーエル(デンキ) イコールダブリュエー(あたたかさ) わるダブリュ(シツリヨウ)のウヘンのダブリュを、エルアイ(ひかり) わるダブリュアイ(チョツケイ)にさしかえた。このシキがただしいとすると、ダブリュイコールエルアイ わるダブリュアイだ。

つまり、ひかりがレイだとすると、シツリヨウもレイになる。また、ダブリュアイがレイでも、ダブリュはレイになる。どういふことかという、ひかりがないところには、なにも



ないということだ。「ブラックホール」が、ひかりをすいこんでいるなら、それは、シツリヨウがあるということになる。だから、それがなにかをすいこんだとしたら、ひかりがあるはずである。だから、なにかがたまっていけば、またもえるか、インセキのようになるだろう。

また、おおきさのないもののシツリヨウはレイということである。だから、あるものをちいさくするようなアツリヨクをかければ、それは、とてつもなくテイオンになるだけで、なくなりほしくない。ギャクに、ひろげれば（オンドをたくすれば）、どこまでもコウオンになる。だから、ウチュウは、ビッグバンでこわれてしまうというより、オンドがあたりつづけるかぎり、ひろがるだろう。シキをいじると、ダブリュアイイコールエルアイわるダブリュだから、ひかりがおおきくなるほど、ウチュウはひろがることになる。シツリヨウとひかりのおおきさがケイサンできれば、ウチュウのおおきさではかれるであろう。

よんジュウよん

イーエル（デンキ） イコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリヨウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウキュウ）。これをいじると、ダブリュ かける イーエルイコールダ

ブリュエーになる。つまり、あたたかさとは、シツリヨウとデンキによることになる。シツリヨウを、さきのケイサンシキをつかつて、ダブリュイコールエルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（チョツケイ）（●よんジュウニ）のチョツケイを、アツリヨクをかけ、ちいさくしてやれば、シツリヨウがおおきくなる。そうすると、さきのシキでは、ギヤクにあたたかくなる。これはなぜだろう。

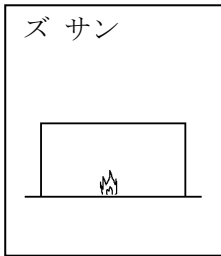
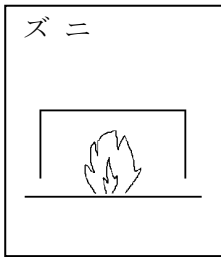
タブン、アツリヨクをかけたでどころのものも、ケイサンシキにはいつてしまうからだとおもわれる。だから、そのもののオンドはひくくなっても、アツリヨクをかけたもとは、オンドがある。そういうことだとおもう。だから、ものにアツリヨクをかけて、あたたかさをさげようとおもっても、ケツカテキには、よりあたたかくなってしまうことがかんがえられる。うまく、ひかりやデンキをおさえられればいいが、そういうむずかしいメンはあるとおもう。

よんジュウゴ

ダブリュ（シツリヨウ） イコールエルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（おおきさ）で

ある(●よんジュウニ)。また、ダブリユかけるイーエル(デンキ) イコール ダブリユエー(あたたかさ)である(●サンジュウよん)。

ものにアツリヨクをかけて、ダブリユアイをへらしたとする。そうすれば、あたたかさがへるはずだが、ほかのヨウソもかわらないと、あたたかさはちいさくならない(●よんジュウよん)。ということとは、このようにソウサしようとするばあいには、エルアイかイーエルをへんかさせるヒツヨウがある。そのイーエルのはなしである。ギヤクに、あるもののオンドをたかめようとすれば、ダブリユアイにタイして、エルアイがおおきくなる。もやしてみるばあいをかんがえればいい。ひかりがでるし、いくらかキタイになって、ものがおおきくなる。それをとめるのには、どうしたらいいか(ズイチ)。



みずをかけるホウホウもあるが、ひかりをシャヘイするものをかぶせればよい（ズニ、ズサン）。

そうすると、ダブリュアイもおおきくならないし、エルアイもおおきくならない。エルアイはでつづけるだろうが、リョウイキのゲンテイがあるから、やがてひかりはリンカイにタツするだろう。そのあと、ひがよわまるかどうかは、ケイケンであるとおもうが、やがてひがよわまる（タバコなどのばあいだ）。

そうすると、エルアイがおおきく、したがってダブリュがおおきくなる（ダブリュアイがゲンテイされているからだ。そうすると、ゲンテイのそとへちからがはたらくとおもう。）そうすると、そのゲンテイのなかにあつたベツのものが、ソウタイテキにかかることになる。

だから、ひかりがリンカイにタツするようなばあいには、そのリョウイキナイにあるベツのものがうくカノウセイがあるし、ものをとばすのがヨウイになろう。つまり、チキュウジヨウでショウゴをリンカイととらえれば、ゴゴのホウが、なにかをとばしたりするのが、カントンになる。とりのはね（ウモウ）も、くもりやあめのひよりも、はれのひのホウがとびやすいとなる。

よんジュウロク

エイゴは、アルファベットをくみかえてつくられる。クール（シーオーオーエルを、クーラー（シーオーオーエルイール）と、ハツテンさせることができる。また、アルファベツトも、サンジュウモジにもみたくない。

チュウゴクゴ（カンブン）でいうと、レイを、レイボウキと、イチモジのところを、ニモジふやして、サンモジにしなればならない。レスボンシブル オートマティック クーラー だったら、センタクテキジドウレイボウキとカンジをいくつもつかう。

クールをクーラーといえるのに、すずしいからレイボウキと、タクサンのモジをあつかうことは、コウリツテキでない。コウリツテキにかんがえたら、リョウフウキやレイといえはとなる。そこどころが、カンゴとエイゴのリョウホウつかうニホンジンのカダイだろう。こうやって、かなであれば、エイゴのようにつかえるが、やっぱりブンカテキなモンダイもある。

よんジュウなな

「レキシ」というのはなんだろうか。くちでつたえられるレキシもあるうが、やはり、ホンなのだろう。キロクになければ、そのレキシはないということである。たまに、シンのシコウテイのようなレキシをほうむりさるひともいる。ベツにくになどのレキシにかぎらない。ギジュツにしたって、レキシだろう。いまは、ケツコウなことがコンピューターサーバーにキロクされている。それをこわせば、そのレキシはおわりであろう。レキシにくわしいひとも、レキシにくわしくないひともいる。ジブンでなにかしごとをしたかったら、レキシからキヨリをおくことである。テレビからも、はなれたホウがいいだろう。そして、ジブンのレキシをかくといい。

よんジュウハチ

エーアイはかしこいといっても、それは、ロンリである。つまり、ゲンゴやフゴウにならないものは、あつかえない。それにタイして、ニンゲンには、みる事ができて、ヒゲンゴジョウホウがつかえて、チョツカンがある。だから、まだニンはまけないだろうとおもう。

よんジュウキユウ

ニホンはこれから、コウレイカとインフレとのたたかいでタイヘンである。シヨウライにそなえて、チヨキンをするべきといはなしもある。だから、あまりゼイタクはできない。

しかし、ニホンジンのあるテイドは、ジミントウタイシツ（●ジュウキユウ、『ア』ヒヤクゴ）である。ニホンサンのたべものとガツシユウコクサンのたべものをたべるひとのことである。だから、ガツシユウコクのひとのまねをしやすい。

しかし、ガツシユウコクジンとおなじようにシヨウヒしたら、ダメである。たしかに、ガツシユウコクのひとに、あこがれることもあるだろう。だが、チヨキンをしなければだめだし、はたらきぶりが、ニホンジンよりいいという。だから、いまはまねてはだめなのだ。はたらきぶりをまねるのはいいだろう。

ゴジュウ

イシキは、エル（ウインドウ）である（●『ウ』ヒヤクキユウジュウキユウ、『ウ』ヒヤクゴジュウゴ、『ウ』

ヒヤクニジュウイチ、『ウ』ヒヤクジュウよん、『ス』よんジュウイチ)。また、イーエル(デンキ)でもある(●エルイコールイーエルより、『ウ』よんジュウゴ)。だから、そこからカンサツカノウである(いまのとはできないかもしれないが)。

デンキシングウをみるわけである。それなら、ニンゲンには、うちはないのかとなる。しかし、プライベートなシコウもあるだろう。しりたがりなら、あるひとのイシキをしりたがるだろうが、それはメイワクであろう。しかし、そんなものだ。そうやって、うちとそとにわけると、カンサツカノウになるわけだ(キャツカンがカノウになるから)。ホンネとたてまえというニホンジンなら、まあ、そういうのはあるう。しかし、おもてうらのないひともあるだろう。カンサツしても、しかたがないが、「イシキ」はなくはないといえそうだ。





ひかりがあるところにはジュウリヨクがある。シドクバン  
エイゾウ

ニセンジュウキウネンジュウニガツニジュウハチニチ

ニセンニジュウイチネンクガツヨウカ

ニセンニジュウニネンジュウガツジュウニニチ

iii toga db009-3s

エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシアアイアイテイオージーエーピリオドシ  
ーオーエム

テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオドシ  
オーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキユウネン

『ウインドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキユウネン

『エルガクゝひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキユウ

『ものみダイからのケイザイガク』ニセンジュウキユウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニユウできます。